



医師

この冬のSARS、インフルエンザ流行に関して

呼吸器内科副部長 竹原 木綿子

先般のSARS（重症急性呼吸器症候群：Severe Acute Respiratory Syndrome）の世界的な集団発生は、夏の間封じ込められていましたが、季節によって、SARSが再度流行するかどうかはほとんど分かっておりません。

呼吸器の病気には、気温や湿度が高い場合にはほとんど発生せず、気候が涼しくなると再度発生するようになるものがいくつもあります。

SARSとインフルエンザの症状は似ています。

発熱、関節痛、頭痛などの症状で発症し、乾いた咳や呼吸困難などが出てきます。

SARSの死亡率は、全体として14～15%（24歳未満1%未満、65歳以上50%以上）です。SARSの死亡者は今年7月の時点で全世界で800人弱です。一方インフルエンザは、季節的流行の間に毎年世界中で全人口の10～20%がインフルエンザに罹患し、その結果、300～500万人の重症例と少なくとも25～50万人の死亡がでています。

インフルエンザで死亡する人のほとんどは、肺炎を合併しやすい、高齢者、呼吸器の病気や腎臓や心臓などの慢性疾患を持っている人たちです。

インフルエンザワクチンは、例えば施設

内で看護を受ける高齢者において、インフルエンザによる死亡を80%、入院や肺炎の発生を50～60%、また、インフルエンザの発症を30～40%防止します。

インフルエンザを予防する最も有効な方法は、毎年インフルエンザ予防接種を受けることです。また、最近インフルエンザウイルスの増殖を抑える「抗ウイルス薬」が開発されました。ただし、お薬は発症後48時間以内に開始しないと効果がみられません。

現段階で、有効な診断法も治療法も確立されていないSARSに対して、また高齢の方や慢性病をお持ちの方にとっては死亡のリスクも高いインフルエンザに対して、私達のできることは、インフルエンザの予防接種、うがい、手洗いなどの自己管理、症状が出た時の適切な対処ということになります。

65歳以上の方、慢性病をお持ちの方、この冬未だの方はインフルエンザの予防接種をご検討下さい。



★「フィリア・レター」は、中部労災病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。